

令和7年7月11日(木) 16:00～
於 会議室

1. 校長挨拶

学校全体の雰囲気はとても落ち着いている。昨年度からの反省で、特に生徒支援について月間目標を作っている。

6月に1週間前期課程生全員に給食の試行を行った。県の作業部会でアンケート集約中である。8月には県との協議があり、今後の方向性を決める予定。

生徒の活動としては、野球部はじめ様々な活動に頑張っている。

2. 委員の紹介

3. 学校運営協議会 会長及び副会長について

4. 学校より

(1) 学校運営協議会について

学校評価部会、しっかり学びゆっくり探る部会、じっくり育て部会を設置する。

(2) 令和7年度 学校運営方針について

ア) 令和7年度学校目標及びグループ目標について

・教務Gより

不祥事・事故防止を目標にしてきた。成績処理や試験に関するヒヤリハットに留意して随時問題を分析し、注意喚起に努める。今年度も成績処理について事故防止ゼロを目指す。

・研究開発Gより

不祥事防止としては同僚性を高めることを重視している。対話を軸として相互理解の研修を実施している。特に前期生の生徒像を中心に共有し、現場に合った授業づくりを目指す。160人で6年間過ごすことは強みでもあり弱みでもある。人的交流の幅の狭さという弱みを補うべく、スクールクロスとして他校生徒の参加も促して特別土曜講座を開催している。大学生との交流もあり、教育効果も期待できる。今後も他の県立高校とともに充実を図る。

・生徒支援Gより

昨年度から安全教育を中心に行っている。「未然に防ぐ」に重点を置いている。月間目標も定めている。学校全体で共通理解をすすめ、教員から声をかける。

いじめを防ぐ方策として交流委員会を活用し、いじめ撲滅キャンペーンを実施した。各学年で話し合ってポスターを制作し、振り返りを行う。多くの生徒が主旨を理解し、いじめを防ぐことにつながっている。

カウンセリングの積極的活用を勧める。SNSに関するトラブルについて、サイバーボランティアは行っているが更に前期課程生にも外部講師を招いての研修を計画している。

生徒の様子を知るためのアンケートについて、よりきめ細やかな質問項目を考える予定である。できることをどんどん進めて安全教育を推進する。

・キャリア支援Gより

「高い目標を持って進路選択」が毎年の目標である。3年次で実施している大学訪問が生徒の意識を高めることにつながっているようだ。

・企画Gより

3年を中心に学校案内を作成している。学校説明会で配付する。学校説明会は2年生が中心となり準備している。わかりやすいプレゼンを行えるよう支援する。

・総務Gより

昨年度は防災訓練時、雨天で体験ができなかった。防災に対するDVD等を借りて、雨天時でも何ができるか模索していく。防災意識を高められるよう指導する。

・生徒会Gより

「あいさつ・時間を守る・整理整頓」を校内掲示し、6年間の生活基盤づくりを前期生中心に取り組む。アンケートでは8割以上の生徒が達成できたと回答した。いかに6年間、後期生までつなげられるかを考える。

評議会の連携、学校全体の取り組みとしてできるかが課題である。行事など真摯にとりくめる生徒たちが、自分の生活も見つめ直せるように支援する。体育部門での取組は素晴らしかった。自治活動の基盤となる生徒会にしていきたい

・教頭より

学校全体で職場環境の改善、帰宅しやすいよう業務のスクラップ提案を行っている。

<協議・質疑応答>

Q 進路結果について、東大合格率33%（12名中の4名合格）は毎年このようなものなのか。

A 毎年かと言われるとはっきりしないが、大体そのようだ。

Q 不合格となった場合、生徒はどうしているのか。

A 浪人する生徒もいるし、後期を受験・合格し、進学する生徒もいる。本人が納得していることが大事だと考えている。

Q 不登校気味の生徒に対する手当をどうするか。その成果は出ているのか。

A 学校要覧を参照してもらくと、後期課程生の在籍数は150を超えているので一時期よりは多い。昨年度は3年全員と面談したが、その結果4年次では頑張っている生徒が多くいる。

Q 前期課程でのフォローについて、問題意識の共有と手立ての模索が継続されていると理解する。事故を未然に防ぐといていたが、カウンセラーの体制はどうなっているか。

A 曜日ごとに2名（週4日は確実に来てもらっている）、ボランティアで勉強を見てもらっているスクールメンター1名がいる。予約は取りにくい状況ではあるが、保護者、先生方も受けている。教員はHyper-QUの結果の読み方も教えてもらう。保護者、生徒、先生で予約はいっぱい状態だ。

- Q 医療につなげることについては誰の判断ですか。
- A 教員からは直接つなげることはできないので、カウンセラーからつないでもらっている。カウンセラーの2人の対応には感謝している。
- Q 防災について学校ではどういう企画を立てているのか。
- A 雷が鳴ったら活動を中止するなど、学校全体で注意している。
- Q 相模原市内の小中学校ではチャットで情報共有している。登校や下校時の相談もしている。同じ相模原市内なのでグループに入ってもらうのもメリットがあるのではないかな。
- A 防災関係では、県立学校の校長同士ではやり取りをしているが、高校の目線なので小中学校とも共有したい。仲間に入れてもらえれば有難い。
- Q 電車が止まったらどうする、ということを考えさせているか。非常時にどうするかを個人としてシミュレートさせるのも大事。
- A 地震と天気のところ、授業中にハザードマップ確認やお家の人との連絡確認、気象庁のページで確認できることや待ち時間の判断の仕方などを教えている。ゲリラ豪雨は予測や指示が難しい。無事に帰宅させるのが大事。
- Q 相模原市内で不登校生徒が多い。令和9年までには各学校に支援センターを作る計画が進んでいる。モニター校が3校あり、居場所作りをしている。人との関わりをベースに支援しているので、そういう方法もいいのではないかな。非常勤や教職員で授業数が少ない先生に入ってもらっている。引き籠りまでいかないようにしていくように考えている。東京都は先生が関わらないようにしているようだ。
- A 私学では横浜の私学会館で居場所を作っているようだ。本校でも模索していきたい。
- Q 先生の労働時間が45時間を超えている。教員の労働時間に対する手立てはどうか。業務として何を減らす、ということを考えることが大事。
- A 80時間を超えている職員は3名、100時間は1名、45時間以上は15名と、やや減っている。土日については不明な点もある。全体を踏まえて見ることを考えている。総括的に、部活動の大会に行っている時間も考慮したい。

<ご意見>

- ・特別土曜講座以外でも、一流の人と接する場を作ってもらいたい。社会的に活躍している人を招いてみるのもいいと思う。
- ・同僚性について、生徒が160人しかいないので、全員の生徒のことを把握できるのが強み。自分の足りないところを他の先生が補ってくれている、という意識を持ち、先生同士で補い合えることも同僚性に繋がる。
- ・小学校から受検日に30～40人受験する。6年の親は1度受験がなくなる喜びがあるが、生活を工夫していける子が受かった方が担任は安心できる。入学して苦しい子もいるのではないかと担任としては思う。塾で訓練されて偶然受かって苦しむ子がいるのでは、と心配している。
- ・雷雨、部活、鉄道が止まる、など地域によって状況が変わってなかなか難しい。通学時間が長いと親としては心配がある。早目に帰宅させるような学校全体としての連絡があればいい。川崎市には学校に行けたり行けなかったりする生徒の登校を促し、個々に対応しているところもある。

- ・評価の観点について、根拠となるものを出してほしい。こういったことができていれば、大体できているといえるのか。ネガティブな指標ではない、良い方向での変化が見えるような指標を工夫するといい。学校が楽しい、授業がわかりやすいなどで良いのでざっくりと大まかな指標がほしい。こういうことをやったから、生徒が変わった、と言える指標を経年を出していけるとよい。

<事務連絡>

- ・お気づきの点は次回まで待たずに随時知らせてほしい。学校教育計画、予算編成については参考にしてほしい。
- ・たくさんのご意見に感謝する。生徒たちの活動を支えるためにお力を貸してほしい。文化部門にも是非お越しいただきたい。